



## びっぶ オール比布の特産品 ～日本中で愛されるTKG～

吉田 豊 (よしだ ゆたか)  
比布商工会 経営指導員

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく-北海道」運動第8回コンクールで奨励賞を受賞した団体、「比布商工会青年部」の当時の担当者の吉田豊さんにお話を伺いました。

### 《町を担う若手経営者が開発した新たな特産品》

北海道の中央に位置し旭川市に隣接した比布町は人口3,400人ほどの農業の盛んな町です。「スキーといちごのまち」とキャッチフレーズにもなっているいちごは、大正時代から栽培が始まり全道一の作付面積を誇ります。また、昭和50年代に放送された「ピップエレキバン」のCMで全国的に有名になりました。最近では、ブランド米「ゆめぴりか」の発祥の地としても知られています。その比布町で町の元気を創出するためさまざまな活動をしているのが、比布商工会青年部です。

比布町は、将来のまちづくりの主役として活躍する人材を育成する目的として、2011年度から町教育委員会が主催するまちづくりリーダー育成プロジェクト事業をスタートしました。旭川大学の江口尚文教授を講師に招き、町内の若手経営者等が「農業」「商工業」「青年活動」をテーマにした講座を受講しました。受講を重ねる中で町の特産品を使った新商品の開発が持ち上



がり、何度も議論を重ねた結果、日本人なら誰でも知っている「たまごかけごはん (TKG)」のアイデアが生み出されました。



比布商工会青年部のメンバー

### 《TKGでギネス世界記録》

地元の食材として、比布自慢のお米「ゆめぴりか」、町内で約70年続く大熊養鶏場のブランド卵「かっぱの健卵<sup>けんらん</sup>」は、すぐに決まりましたが、それだけでは、TKGになりません。そこで、メンバーが思い付く食材を持ち寄り試行錯誤を重ねて生まれたのが、比布の冬の特産品「千本ねぎ」を使った「小ねぎしょう油」でした。こうして2016年「北海道比布町のとっておき濃厚たまごかけごはんセット」が完成しました。その後も久保農園生産のにんにくを入れた「小ねぎ塩だれ」、ゆずの香り漂う「小ねぎポン酢」を開発。商品は町のふるさと納税返礼品や一部店舗、比布駅舎内の「ピピカフェ」で販売、食事メニューとしても提供されています。

2024年に130年を迎えた比布町は、「びっぶ130年記念行事」として「同時に卵かけご飯を作った最多人数」でギネス世界記録に挑戦しました。当日は町の体育館に327人が集まり、TKGセットを使って手助けなしで5分以内に卵かけご飯作りに成功し、ギネス世界記録に認定されました。このイベントが一部メディアで紹介されたことで、一時期注文が殺到して、各催事場に出店する商品の在庫が品薄になるなど、TKGセットは大好評を得ました。他にも商工会青年部では、チャリティーイベントや地域の人々が交流する場を提供するなど、地域全体がより住みやすく、魅力的な場所となるように活動しています。

最後に吉田さんは、「地元食材を組み合わせた新商品を模索中です」と、今後の抱負を語ってくれました。

※当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しく-北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。